

環境コースの課題研究について

環境コース 知識 正和

1 はじめに

屋久島高校の環境コースは、平成13年に普通科に創設され今年で15年目を迎えている。県内唯一の環境コースで、屋久島高校独自のカリキュラムが設定されている。現在の在籍数は2年生9人、3年生7人の計16人である。環境コースの目標は、「世界自然遺産」の屋久島地域の環境（自然・文化・歴史・行政など）を学ぶことによって屋久島のことを深く学ぶと共に、人との関わりを考え、持続可能な社会形成に取り組む実践的能力や態度を身につけることである。各自で自然科学分野から人文科学、社会科学分野などの研究テーマを決定し、課題研究を行い、発表会を実施している。

設立以来、大学進学への進路を重視してカリキュラムや授業内容が少しずつ変化している。今回は、環境コースで取り組んでいる課題研究のタイトルについて紹介する。

2 環境コースについて

2年次のコース選択で環境コースを選択した生徒は3年次まで継続して環境コースに所属する。2年次の前半は屋久島の地学分野・生物学分野・社会分野・家庭分野について講義中心で幅広く学んでいる。

また、屋久島の学術的魅力に気づかせ、生徒の興味・関心を喚起させることを目的として野外活動・実習も取り入れている。

2年次の12月から、課題研究テーマを決定し、3年次においては屋久島に関わることを自ら選びながら、課題研究を進めている。5月には中間発表を行い、毎年文化祭でも披露している。

11月上旬に課題研究発表会を実施し、最終的に12月中旬までに論文を完成させる。

3 過去の研究テーマの一覧（過去9年間）

期	No	テーマ名	分野
13	1	旧上屋久町・中学校の統廃合による影響 ～校歌・跡地活用に注目して～	社会
	2	屋久島の縄文時代の人々の生活について	社会
	3	ヤクシマカワゴロモの生態系について	生物
	4	ハマダイコンのpHの変化による生育の影響について	化学
	5	ヤクシカの数について	生物
	6	屋久島の宗教史と山岳信仰との関わりについて	社会
12	1	屋久島における廃棄物ゼロへの取り組みとその周知状況について	社会
	2	一湊礫岩の形成について	地学
	3	ヤクシマカワゴロモの生育と流下物の関係について	生物
	4	ヤクシマカワゴロモの生育と自然石上のコロニーの変化	生物

	5	ハマダイコンの生育環境と食用について	生物
	6	屋久島における持続的な活動の在り方について	社会
	7	一湊礫岩の構造と成因について	地学
	8	屋久島の年中行事と食との関わりについて ～原地区と宮之浦地区の比較～	家庭
11	1	ハマダイコンの生育環境について	生物
	2	ハマダイコンの葉の形について	生物
	3	屋久島の郷土料理について	家庭
	4	一湊川のヤクシマカワゴロモの生育と土砂の流下物の関係について	生物
	5	ヤクシマカワゴロモの生育と藻類・コケ類の関係に関する研究	生物
	6	ヤクシマカワゴロモの花と自然石上の被度に関する研究	生物
	7	楠川生痕化石に関する研究	地学
	8	屋久島の砂浜及び海砂浜に関する調査	地学
	9	ヤクシカの糞粒法による屋久島高校内のヤクシカ生息密度調査	生物
	10	ポンカン・タンカンの糖度・pHに関する研究	化学
	11	屋久島における信仰と地域振興の関連性について	社会
10	1	シカ肉の成分を調べ、シカ肉を使った美味しい創作料理の研究	家庭
	2	屋久島産シロアリの生態について	生物
	3	屋久犬について	生物
	4	屋久島産ハマダイコンの分布と場所による形質の違い	生物
	5	ヤクシマカワゴロモの生育について	生物
9	1	屋久島の塩の研究	化学
	2	ヤクシマカワゴロモの生育研究	生物
	3	永田川産ハゼの体色変化について	生物
	4	屋久島とウコン・ガジュツについて	生物
	5	屋久島の日向層群に見られる生痕化石について	地学
8	1	小杉谷・石塚集落の暮らし ～学校生活・娯楽～	社会
	2	ヤクシマカワゴロモを取りまく水生昆虫	生物
	3	屋久島のエコツーリズムについて	社会
	4	屋久島のタヌキの食性について～西部地域で見られたタヌキのため糞の分析	生物
	5	屋久島の降雨調査について	社会
	6	屋久島一湊川のみに自生する絶滅危惧植物 ～ヤクシマカワゴロモの生育環境研究	生物

	7	小杉谷・石塚集落の暮らし ～食・生活文化～	社会
	8	屋久島の地産地消 ～屋久島産菓子への挑戦！～	家庭
7	1	イソフサギの耐塩性について	生物
	2	屋久島の地形・地質について ～火砕流と海岸段丘～	家庭
	3	懐かしい宮之浦の味を求めて ～高齢者が食べやすい弁当～	家庭
	4	夏の登山向け！！栄養バランスの良い地産食材を使った献立作り	家庭
	5	屋久島一湊川のみに自生する絶滅危惧種 ～ヤクシマカワゴロモの生育環境研究	生物
	6	屋久島の環境保全に関する協力金のあり方	社会
	7	「縄文杉」と「タネ・マフタ」の姉妹木締結の経緯と発展性	社会
	8	永田地区における医療事情の実態変化	社会
	9	深川地区における海岸植生について	生物
6	1	屋久島のだんごからみる食文化 ～地域分化を中心に～	家庭
	2	屋久島の日向層群で見られるZoophycos化石の分布とその形成者について	地学
5	1	屋久島&屋久杉の工芸品について	社会
	2	絶滅危惧種の本	生物
	3	薬草 a n d 薬になる果物・野菜の論文	化学
	4	屋久島の海辺生物	生物
	5	屋久島に生息する魚	生物
	6	環境問題の実態	社会

4 おわりに

研究紀要11号の「環境コースの現状とこれから」において四角目昇一教諭がまとめている内容に対して大きく付け加える内容も少なかったため、今回は課題研究のタイトルを追加することにした。

環境コースの課題研究は、地域からの情報提供に負うところが大きい。屋久島というフィールドで、地元の高校生の視点で課題を見だし、それについて客観的で発展的な分析や記録を残しているという点での評価を筆者は期待したい。